

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

「主体的なコミュニケーション活動を通して、深い学びを実現する生徒の育成」

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

南河内第二中学校区では、小学校と中学校が同じ研究テーマを掲げ、系統的に小中一貫教育の推進に取り組んでいる。令和4・5年度の2か年計画で、「伝える力の育成」をテーマとして、「教育活動全体を通して、考えや気持ちを理解し、互いに認め会える子どもの育成」を目指している。本校では全教科を対象として「伝える力の育成」に取り組むことにした。そこで、学校課題を「主体的なコミュニケーション活動を通して、深い学びを実現する生徒の育成」とし、全教科でコミュニケーション活動を積極的に実施し、思考力・表現力を高め、学びを実現する生徒を育てていきたい。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

「自らの目標に向かい自己調整を行いながら、粘り強く深い学びを追究する生徒」

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の4点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ①コミュニケーション活動を必要とする学習課題の設定
- ②コミュニケーション活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める授業展開の工夫
- ③コミュニケーション活動に積極的に参加する雰囲気づくりと個への対応
- ④タブレットのネットワーク機能を活用したコミュニケーション活動

(4) 研究方法

- ①コミュニケーション活動に必然性をもたせ、やや難易度の高い学習課題を設定することで、コミュニケーション活動がより活発、かつ内容に深まりが出るよう工夫する。
- ②思考力・表現力の育成に向け、各教科で指導法やコミュニケーション活動の在り方、発問や資料提示の工夫等を研究し、いかにして深い学びにつなげるかを探究する。
- ③コミュニケーション活動時の全体や個人に対する教師の言葉掛けや寛容な姿勢、コミュニケーションしやすいグループの人数や形態等について授業実践を通して探究する。
- ④タブレットのネットワーク機能を活用した多様なコミュニケーション活動を実践し、授業におけるタブレット活用の有用性について探究する。

(5) 研究手順

研究方法で示した内容を以下の手順で進めていく。研究授業は今年度年間2回設定し教科の枠を取り除いて全教職員が参観する。研究授業の成果と課題のもと、各教科の研究実践や授業改善に生かしていく。

- | | |
|-------------------------------|--|
| ① 4月 | 研究計画の作成 評価計画・指導計画・課題設定についての検討 |
| ② 4月19日 | 教研式標準学力検査（1年） とちぎっ子学習状況調査実施（2年）
全国学力・学習状況調査実施（3年） |
| ③ 8月 | とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析
各教科で評価計画及び指導計画について検討 |
| ④ 10月 | 全国学力・学習状況調査の分析
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討 |
| ⑤ | 『深い学び』に関する研究授業・授業研究会の実施
S&U コラボ 事業（道徳・9月）（社会・11月）要請訪問（保健体育・10月） |
| ⑥ 12月 | 教科部会で研究報告の作成 |
| *前期（7月）・後期（10月）（2月）に道徳を語る会を実施 | |

3 研究内容

(1) コミュニケーション活動を深い学びにつなげるために、学習課題をどのように設定したか。

- ・解釈や考察の違いが出る課題を設定した。その解釈や考察の根拠や理由を説明したり、他の意見を聞いたりすることで深い学びにつながるよう工夫した。（国語）

- ・発展課題を設定し、生徒同士で意見を交換し合いながら解決していくことでねらいに迫れるよう工夫した。（社会）
- ・数学的事象を日常生活と関連付けて考えさせるなど、生徒の興味関心を引き出すように設定した。また、多面的な視点で事象を捉えることで多くの考え方が出るような、話し合いを必要とする課題を設定した。（数学）
- ・理科の学習を日常生活や社会と関連付けながら、関心や理解を深めていけるように課題解決のための話し合い活動を意図的に取り入れて授業を行った。（理科）
- ・コミュニケーション活動では、実生活で起こり得る内容となるように場面設定を行った。発表でも伝える相手を想定し、相手意識をもたせることを重視した。（英語）
- ・より良い演奏にするためには現状として何が足りなくて何が必要なのかを生徒に問いかけ、それから課題を提示するようにした。（音楽）
- ・導入段階で鑑賞の時間を設け、生徒に意見交換させることで、これからの作品製作に対して課題意識をもって取り組ませることができた。（美術）
- ・最適な解決策を共に考えることで、互いの考えを伝え合い、自他の考えを深め合えるような課題を設定した。（技・家）
- ・球技ではチームの課題を設定し、練習メニューを考え改善を図り、試合で実践する授業を行った。（保体）

（２）コミュニケーション活動を通して、思考力、判断力、表現力等高める授業展開をどのように工夫したか。

- ・同じ課題の生徒が集まって発表し、お互いのよい表現を使って合作したり、修正をしたりしながら和歌などの作品をつくる授業を行った。（国語）
- ・発表準備の段階で中間発表を取り入れることで、自分の発表内容を振り返ったり級友や教師からフィードバックを得たりすることができ、それらを参考に内容を修正することでより良い発表に仕上げることができた。（英語）
- ・合唱の授業では、パートごとに毎時間自分たちで課題を設定し、意見を出し合いながら重点的に練習するようにした。また最後に振り返りを行い、次の練習に生かすことができた。（音楽）

（３）コミュニケーション活動に積極的に参加する雰囲気づくりと個への対応をどのように行ったか。

- ・上手に作る・描くを重視するのではなく、「なぜこう作ったのか」「どのように描いたのか」について3・4人程度の少人数グループで共有し、より創造力や発想力を発揮したいと思えるような雰囲気づくりを心掛けた。（美術）
- ・グループで2人以上の意見を聞くことで、自然な形で新たな気付きやエラーが訂正され学びが深まった。配慮の必要な生徒も疎外感を感じることなく取り組むことができていた。（英語）
- ・「いい意見だね。ぜひ、みんなの前で発表して。」など生徒同士をつなぐ言葉掛けを積極的に行うことで、個人の学びが深まるだけでなく、学級としての変容を感じるようになった。（理科）

（４）コミュニケーション活動を充実させるため、タブレットのネットワーク機能をどのように活用したか。

- ・課題に対して役割分担を行い、調べ学習に取り組み、お互いの調べた内容を共有する場面で有効に活用することができた。（社会）
- ・Google Forms を利用し、その場で行った質問などを即集計し生徒に提示した。考えを共有することで、思考の方向性を決めたり、自分の意見に自信をもったりすることにつながった。（数学）
- ・おしゃべりボードを活用するよりも効率よく、より多くの生徒の意見を1つの画面で共有することが可能であり、課題・結果に対して多面的に考えることができる点で高い効果を感じた。（理科）

4 本年度の成果と課題

（１）成果

- ・日常生活と関連付けた学習課題を設定したり、前時の授業や導入から生徒が自ら課題を設定したりすることで興味関心を高めることができた。また、多面的に考えさせ、課題解決のために話し合いが必要な場面をつくることで学びを深めることができた。
- ・グループでの話し合いでは他の意見を参考に修正を行ったり、教師の声掛けや問い掛けにより考えを全体で共有したりすることで個人の学びに生かすことができた。
- ・タブレットの使用により、より多くの意見を共有することが可能になり、思考力や判断力を高めるために有効に活用することができた。

（２）課題

- ・「主体的なコミュニケーション活動」の捉え方において、教科及び教師間で十分な共通理解が図れていなかった。「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を身に付けるために「粘り強く取り組む」「自己調整を行う」ことが必要だということを踏まえて授業づくりに取り組む必要がある。
- ・タブレットの活用は生徒たちの意欲を高めるが、多用することで本来の目的から外れてしまう場面もあった。コミュニケーション活動でのタブレットの活用は、あくまで手段であることを踏まえ改善を図っていきたい。